

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上の注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です

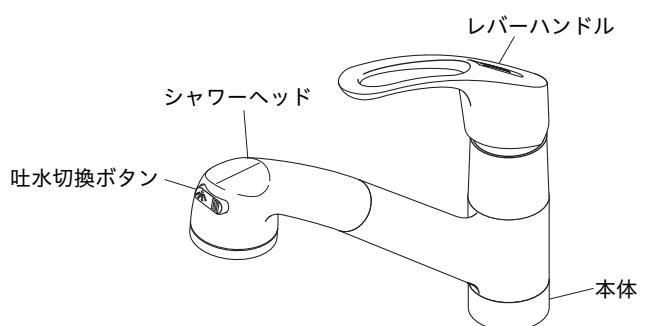
この絵表示は、必ず実行していただき「強制」の内容です

警告	湯水を逆に配管しないでください。 禁止	給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。 禁止	加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。 禁止
	水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。	85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
注意	給湯に蒸気を使用しないでください。 禁止	寒冷地仕様の場合 水抜きまみは水抜き以外の目的で開けないでください。 禁止	配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。 禁止
	器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。	水抜きまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
注意	器具に強い力や衝撃を与えないでください。 禁止	めっき部品は、ぶつけたり落したりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。 禁止	他所の水栓の使用等により水圧変動が起り、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。 やけどのおそれがありますので、やけどをおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。
	器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。	やけどのおそれがありますので、やけどをおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

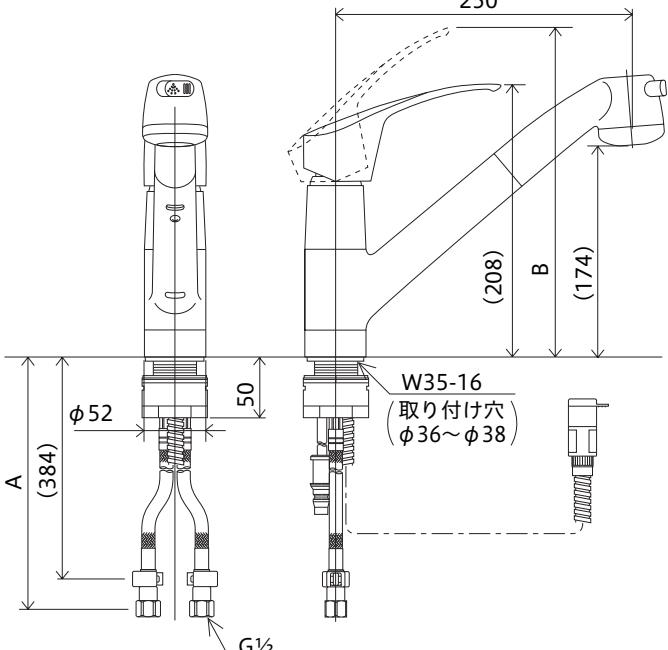
1 ページ

取り付け完成図と各部の名称／寸法図／分解図

取り付け完成図と各部の名称

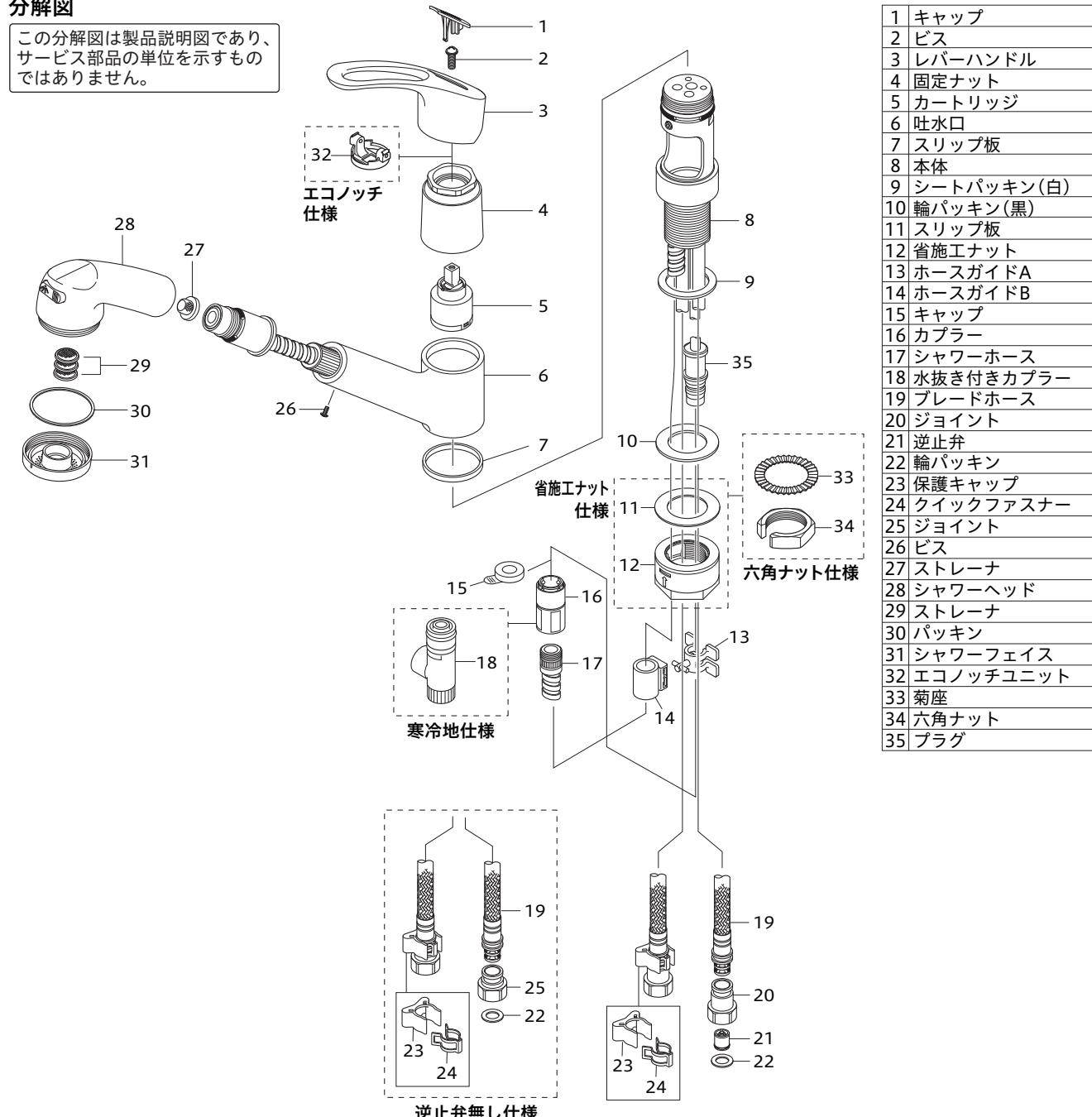


寸法図



分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



3 ページ

4 ページ

取り付け手順

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

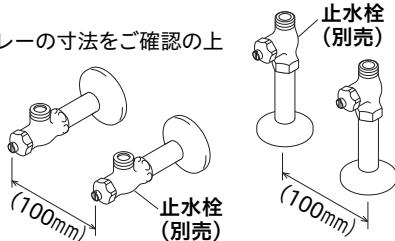
2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。

水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けてください。

止水栓はストレーナ付が最適です。

寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

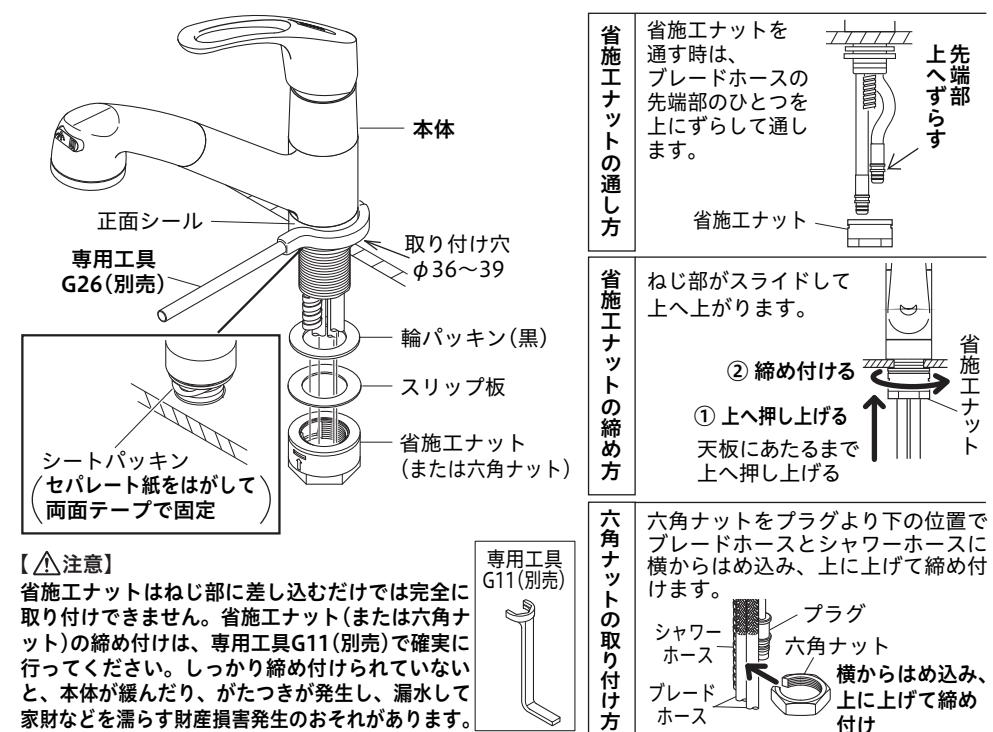


3 本体の固定

取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように本体を完全に固定します。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがして固定してください。

【△注意】

- ・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。
- ・専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けてますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。



5 ページ

4 止水栓との接続 (逆止弁付仕様・逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。)

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。

・締め付けトルクの目安は約2000N·cmです。

・締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

・薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。

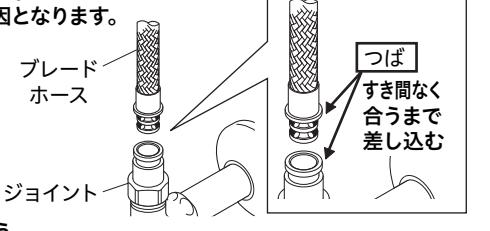
・パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。

・止水栓がしっかりと固定されている事を確認してください。

・固定されないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。



② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

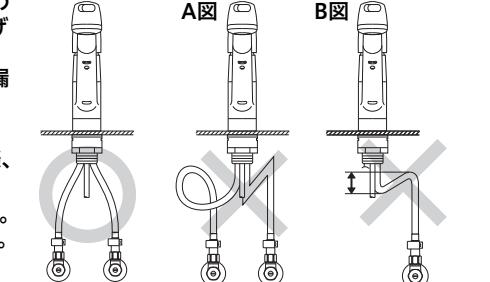


【△注意】

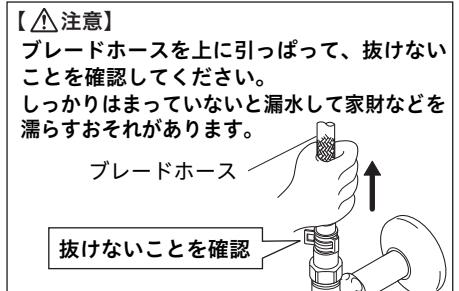
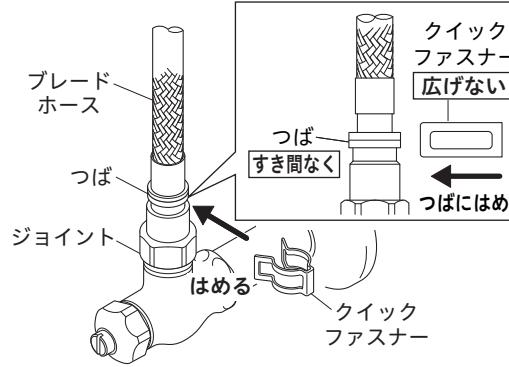
・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるよう曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)

・急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。

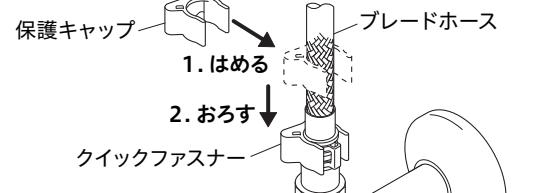
・上下戻り配管はやめてください。(B図)



③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。 この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



6 ページ

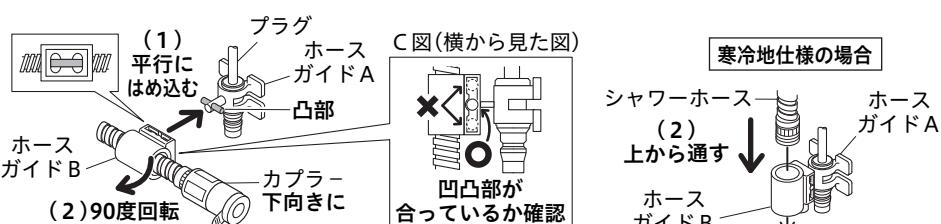
5-1 シャワーホースの接続

① 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。

【お願い】ホースガイドは壁面に固定しないでください。



- (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。
(ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。)
- (2) (一般地仕様の場合) カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。
(寒冷地仕様の場合) ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースをホースガイドBに上から通します。



【△注意】

・固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。

B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。

・シャワーホースが破損し漏水により家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

【お願い】

ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。

・ずれている場合は合わせてください。(C図)

- (一般地仕様の場合)カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。
緩んでいる場合はカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

(寒冷地仕様の場合)水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。
水抜き付きカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

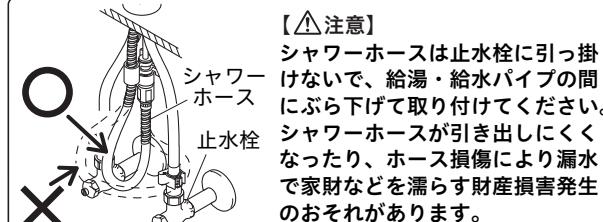
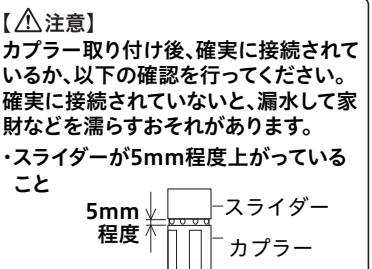
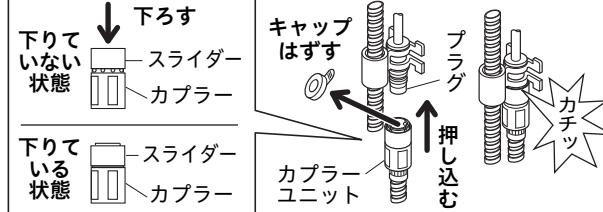
【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
※シャワーホースはねじらない



5-2 カプラーの接続

④ カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグヘカチッと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下りている場合もあります。)

取り付け後、カプラー(寒冷地仕様は水抜き付きカプラー)を引っ張ってはずれないことを確認します。



【△注意】
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水管パイプの間にぶら下げて取り付けてください。
シャワーホースが引き出しつくくなり、ホース損傷により漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

【△注意】
シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。
(ホースとの接続の銅管部を少し曲げることにより調節できます。)

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から漏水がないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

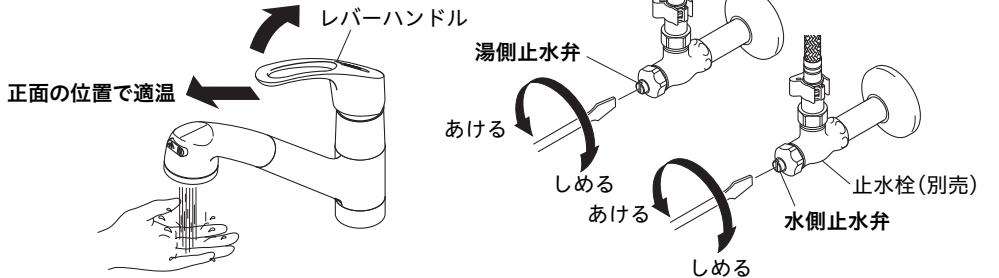
シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

→ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

上いっぱいに上げて適量



7 ページ

8 ページ